

もくじ

- にんぎょひめ
人魚姫

にんぎょひめ
人魚姫

げんさく
原作： アンデルセン どうわ 童話

イラスト： kotokoto

へんしゅう
編集： YellowBirdProject

3

ふか 深^{ふか}い深^{ふか}い、海^{うみ}の底^{そこ}。そこにはたくさんの人魚^{にんぎよ}たちが
す 住^{にんぎよ}む、人魚^{くに}の国^{くに}があり、お城^{しろ}には王様^{おうさま}と、六人^{ろくにん}のお姫様^{ひめさま}
たちが住^すんでいました。六人^{ろくにん}のお姫様^{ひめさま}たちの中^{なか}でも、
すえ 末^{すえ}っ子^この『セレーネ』は、特^{とく}に美^{うつく}しく、国^{くに}中^{じゅう}の人気^{にんき}者^{もの}
でした。

く^くに じゅうごさい 十五^{じゅうごさい}才^{さい}になったら、自由^{じゆう}に海^{うみ}の上^{うえ}に
で 出^でることが許^{ゆる}されていました。空^{そら}を飛^とぶ鳥^{とり}の話^{はな}しや、
ふね 船^{ふね}に乗^のる人^{にん}間^{げん}の話^{はな}しを姉^{あね}たちから何^{なん}度^ども聞^きかされて、
セレーネは早^{はや}く十五^{じゅうごさい}才^{さい}になって、海^{うみ}の上^{うえ}に出^でたいと、
まいにちおも 毎^{まい}日^{にち}思^{つづ}い続けていました。

じゅうごさい たんじょうび むか
そして、セレーネは十五^{じゅうごさい}才^{さい}の誕^{たん}生^{じょう}日^びを迎^{むか}えました。
もううれしくてたまりません。たんじょうび いわ しきてん
お 終^おわった夜^{よる}、セレーネは早^{さっ}速^{そく}、海^{うみ}の上^{うえ}に出^でました。



はじ み うみ うえ せかい まんてん
 初めて見る、海の上の世界です。セレーネが満天の
 ほしぞら み とつぜん おお おと
 星空に見とれていると、突然、ドーンという大きな音と
 とも はなび あ いろ はなび よぞら
 共に、花火が上がりました。色とりどりの花火が、夜空
 たいりん はな さ
 に大輪の花を咲かせました。

いわば こしか しせん うつ
 岩場に腰掛けていたセレーネが、ふと視線を移すと、
 さき いっ おお ふね う すてき
 その先に、一そうの大きな船が浮かんでいました。素敵
 おんがく き きづ
 な音楽が、かすかに聞こえてきます。セレーネは気付か
 れないように、そつ ふね ちか
 れないように、そつと船の近くまでいってみました。

ひとり わかもの ふね うみ
 一人の若者が、船のデッキから海をながめていまし
 わかもの ちか くに す おうじ きょう
 た。その若者は、近くの国に住む王子でした。今日は
 おうじ たんじょうび ふね うえ せいだい ひら
 王子の誕生日で、船の上で盛大なパーティーが開かれ
 していたのです。はじ み にんげん わかもの
 初めに見る人間の若者に、セレーネは
 ひとめ こい お
 一目で恋に落ちてしまいました。

よ ふ ちか きゅう かみなり な
 しかし、夜更けが近づいてくると、急に雷が鳴り、
 うみ すこ あ
 海が少しずつ荒れてきました。

